

●朝。客室。襖を開ける音

おはようございます

お兄さん

あれ：

なんだか

お疲れのご様子ですね

えっと、もしかして：

昨晩はあまり眠れませんでしたか？

やっぱり：

うーん：

お兄さんがここにいらして

みっか

三日：まだ里に慣れないのも

仕方ありません

環境の違いもなんかも

考えられます

そうだ：

お疲れなら

いい場所がありますよ

疲労回復に効く

温泉です

ご案内致しましょうか？

はい：っ

● 場面転換。温泉施設まで移動。

● 引き戸を開けて、露天に出る主人公。

● そのまま歩いて湯船に浸かる。

ばあ…っ！

● 氷こおりが湯船から顔を出して驚かす。

あははっ…！

おにーさん驚いてるねえ

何取り乱してんのさ

ここの露天は混浴だよ？

案内あったでしょ

文字読めないんですかあ？

● 後ろから遅れて歩いてくる隠かくれ

あれ、お姉ちゃん…？

どうしてここに…

お客人サマの動向くらい

把握してない訳ないじゃん

というかこの温泉

他にお客がいない時点で

不思議に思わなかったの？

た、確かに…

言われてみれば

儂が貸切にしておいたのじゃよ

●色が歩いてくる。
しき

色様…！
しき

■酒瓶を飲みながら

ごくっ…ごくっ…

っぱあ…、ふう

どうじゃ客人

この里の居心地は

●すごくいい場所だと答える主人公。

そうか…

それは重畳
ちようじよう

どうじゃ

お主も飲むか？

●遠慮する主人公。

そうか…

まあ、それもよい

昨夜のことは

氷から聞いたぞ
こおり

かくれ
隠を犯す様は

獣の如く

なかなかのものだったと

う、ううう…

なあ、客人

その姿を儂にも

見せてはくれぬか？

安心せい

そのために

貸切にしたのじゃから

思う存分

盛って良いぞ

そうじゃな…

こおり
氷、儂の前で客人と

まぐわ
交合ってはくれぬか？

こおり
え…氷ですかあ？

お主

昨夜は満足できんかったと
申していたじやろう

そうだよ

今度は

お姉ちゃんの番

仕方ないかあ…

おにーさん早漏だから
ちよつと心配だけどお

あ…そうだあ♡

おにーさん

こおり
氷のおまんこ

舐めてよ

おにーさん

どうせすぐに勃起するし

こおり
まずは氷を気持ちよくしてもらって

準備を…おつ、んんっ〜!

● こおり
氷の秘部を舐め始める主人公。

いつ…、んっ

ふ、ふう〜ん

急に…物分かり、いいじゃん…

あつ、あああ…

んっ…ひゃ、あ…ああっ

うっ、いい…あ、あうっ

ね、ねえ…っ

そんな…っ

べろべろ…っ

犬、畜生ちくしょうみたい…

尊厳とか…無いのお？

うっ…うううっ

うあ、んっ、ううっ、んあっ

んん…っ

あっ、あああ…、んっ

ひっ、いつ、いいっ

犬っ、いぬっ！

この、いぬうううっ

ううううううっ！

●力なく、湯船の縁へりに座り込む氷こおり。

ふーっ…、ふーっ

ふうーふう

ふふ…確かに

獣に違いない具合じゃな

氷こおりよ、散々

舐めておった客人に

こうも舐められては

立つ瀬がないのう…

そ、それは…っ

お姉ちゃん…

まだ本番じゃないよ？

これからでしょ

お兄さんが挿れやすいように

脚：開いて

ちよっ…隠かくれ

アンタ…っ

あんなに煽って

余裕がないなんて…

その…私だったら

耐えられないよ

うぐっ…

さあ、お兄さん

私が…勃たせて

差し上げますね

●隠かくれが主人公のペニスをフェラし始める。

ちゅ…ちゅぷっ、じゅ…

ちゅる…れろ、れろちゅる

ちゅぷっ、んっ…れろ

ちゅる、ちゅぱっ…

ちゅぽっ、ちゅぽっ、ちゅぽっ

ちゅぽっ、ちゅぽっ

んっ…ちゅるる、ちゅ

んはあ…あうう…、んっ

れろ、れろ…れえーろ…

んはあ…

ふう…んっ

もう、カチカチ

ですね…

あ…お姉ちゃん

どこ行こうとしてるの？

うっ…

いや…そのお…

湯冷めしちゃうかなって

● 氷こおりを捕まえる隠かくれ。

あっ、こらっ

隠かくれ、放せえっ

どうぞ…っ

お兄さんっ

私が、押さえています

…からっ

お姉ちゃんを

後ろから犯してください

ちよっ…んっ、んんっ！

● 氷こおりを後ろから挿入する主人公。

やつ、あああ

うっ…ぐうっ、うううっ

んっ、んはあ…

あ、あああつ

これ、マジ…挿^{はい}ってる
よね？

んっ…でも

こんなもん、かあ…

昨日のサイズの
もつと、ヤバいかと
思ったけどお

よっゆるじゃん？

あ、あのね…
お姉ちゃん…

えっと…

お姉ちゃんは
後ろを見れないから
もしかしたら

気づいてないかも
しれないけど…

お兄さんのおちんちん
まだ全部入ってないよ？

はあ…？

え、これ…っ

でも、流石に挿れられてる
本人なら

気づいてるかなって
思ったんだけど…

あ…いやいや
当たり前でしょ

気づいてるに
決まってるじゃん

そ、そうだよね…
よかったあ…

もし気づいてないなら
感覚馬鹿過ぎるもんね…

うぐっ…

お兄さん…
もう容赦しないで
おちんちん
全部挿れていいですよ？

え、ちよつと…

●深くまで挿入する主人公。

あっ…、んっ…
んんんっ

あああ…
これ…やばあ…

●ピストンを始める主人公。

あつ、ちよつ

んんっ…、んんんっ

うっ、うっ、ううっ

うんっ、うんっ、んっ、んんっ

マジ、これっ…

逃げられ、ないっ…しっ

おお…

まるで獣の交尾じゃな

あつ、いつ、いいっ

いいっ、いつ、いいっ

いあつ、あつ、あつ、あつ

あつ、あつ、あつ、あつ、ああつ

うぐっ、こ、こんなっ

畜生、みたいな…っ

最悪っ、最悪っ

このっ

犬っ、犬っ、いぬううっ

うっ、うあつ

あうっ、あうっ、あうっ、あうっ

あううっ…っ

さくあくっ、さいあくっ

さいあく、さくあくう…っ

あつ、あうっ、うっ

うっ、うっ、うっ…ううんっ

あ、あんっ、んっ

あっ、あっ、あんっ

あんっ、あんっ、あんっ、あんっ、あんっ

お姉ちゃん…よしよし

喘ぎ声が犬みたいだね…

は、はあ？

そっ、そんなっ、ことっ

あっ、んっ、ないっ、しいっ

いうっ、うっ、うんっ

ううんっ

はっ、はっ、はっ…ふっ

うっ…ううっ

はあ…、はっ、はあーっ…

あっ、んっ、はあ…っ

●ピストンが早くなる。

いっ、ちょ…おっ、おっ

おうう、うっ、うう、ううっ

うっ、うっ、うっ…うっ

うっ、うっ、うっ、うっ、うっ…

ううんっ、ううんっ、ううんっ、ううんっ

ううんっ、ううんっ、ううんっ、ううんっ

あうんっ、あうんっ、あうんっ、あうんっ

あうんっ、あうんっ、あうんっ、あうんっ

おいっ、こらあ…っ

いぬっ…、調子のるなあ…っ

いっつ、いっつ、いい、いっつ、いいんっ
んっ、んう、うっ、ううっ

あっ、ああっ…抜けっ、抜けええっ

抜かぬで良いぞ…

孕ませよ、客人

そ、そんなあっ

色様しきああっ！

あう、あうっ

あうあうあうあうあうっ…！

●そのまま氷こおりの中で射精。

うっ、あああああっ…っ

●力なく、ぐったりとする氷こおり。

●氷こおりからペニスを引き抜く主人公。

ふふ…

なかなか面白いものを見
せてもろうた

次は…

濃みずから自らが相手になろうか

え…色しき様がですか？

うむ

従者が客人を

持て成し損ねたとあらば

里長として、この身で

責任を取る他ほかあるまい

さて…

お主はどうじゃ

客人

儂まじと交わおうて

くれるか？

●「喜んで」と答える主人公。

ふふ…これで

怖気付くお主ではないか

では…

ごくっ…、ごくっ

覚悟はよいか？

●湯船に押し倒される主人公。

ちゅ…んっ、じゅ、んじゅ…

んっ、ちゅ…れおっ、れろっ、ちゅ…

くちゅ、ちゅぱっ…じゅぷっ

んっ、はあ…

●口移しで酒を飲まされる主人公。

濃まぐわと交合うなら

素面しらふでは済まさんぞ

これ、どこへ行くのじゃ
逃げるでない

儂もお主を萎えさせたりはせぬ
もう前戯はいいじやろう

挿れるぞ…

●騎乗位の形で色いろに挿れられてしまう主人公。

んっ…、ほお…
これは、中々

一度射精したとは
思えぬ具合じゃ

性豪せいこうなのは大変結構

●水面を揺らしながら、動き始める色いろ。

んっ、ふっ、ふっ、ふっ…
ふっ…ふっ、ふっ、ふっ

儂の壺は…どうじゃ？

悪いが、かくれ 隠や氷のように

簡単にろうらく 籠絡できるとは…

思うでないぞ

ふっ、うっ、ふんっ

んっ、んっ、ふっ、ふっ

ふっ、ふっ…ふんっ、んっ

はっ、ふっ…ふっ

ふふっ…

これ…客人や

なんと

情けない声を

出すのか

まるで

可愛い女子ではあるまいか
おなご

ほれ

もっと男らしくせい
おのこ

でないと…

■ ささやき

儂を孕ませられぬぞ

○ 激しい耳舐め（アドリブ10秒程度）

○ 激しい耳舐め（アドリブ15秒程度）

ふん…

もっとお主も

腰を動かさぬか

自分で言うのも何じゃが…

矮小な体軀わいしょう たいく おなごの女子に

いいようにされてはいかんぞ

益荒男ますらおの如く、勇ゆうを魅せよ

●煽られて必死に腰を振る主人公。

おっ、おう…、いいぞっ
んっ…そうじゃ…

その、猛りたけじゃ…っ

うっ、うっ、ううっ
んっ…いいっ、いい具合じゃ

ふっ、ふっ、ふう、うっ
うっ、ふっ、うっ、ううっ…

愉たのしい、愉たのしいぞっ

久々の感覚じゃっ

ほれっ、氷こおり、隠かくれっ

は、はいっ

二人も混ざって

客人の耳を持て成してやれ

わかりました…っ

ほら、行くよ

お姉ちゃん

う、ううっ…

くうう…

何で…いぬの耳、なんか…っ

れろっ…、れろっ、じゅぷっ

じゅ、じゅぱっ、れろっ、じゅる

はああむっ…じゅ、ちゅる…

ちゅぱっ、れろっ、れろちゅ、ちゅる

ちゅぱっ

どうじゃ…この光景

まさに酒池肉林じゃろう？
しゅちにくりん

お主はこの女子達に種を注ぎ
おなご

孕ませることができる

唯一の雄なのじゃ

光栄であろう？

のう？

じゅる…れろっ、ふっ

流石、色様…♡
しき

おに…さん、じゅる…いいように

されてえ…んっ、みっともないねえ

れろっ、じゅる…じゅばっ、れろれろ

れえ…ろ…じゅ、じゅぷっ

くちゅ、れろっ、れえ…ろ…ちゅ、ちゅる

じゅばっ、じゅば、じゅば、じゅばっ

んっ…れろくちゅ、くちゅ、じゅるる

じゅ、じゅぷぷ…んっ、はあうっ、ちゅ

れろじゅる、じゅ、じゅるる…

れろっ、ちゅる…ちゅばっ

れろれろ…んちゅ、はむう、ちゅ

ちゅばっ…んちゅ、ちゅ、れえ…ろ

れえ…ろ…、じゅる、じゅぷぷ…

お兄さん…気持ちいですか？

この里にいれば…ずっと

こんな気持ちいい毎日が

じゅる、続くんですよお…

最高だと、思いませんかあ？

んっ…まさか、嫌がったりしませんよね？

男なら…これぐらい

相手できますよね？

ねえ…？

あああ…

わかるぞ、客人

子種が上がって

来ておるのじゃろう？

酒も相^{あい}まって

どうやら限界らしいな

仕方ないのう…

ならば数を数えさせよう

儂がよいと言うまで

出してはならぬぞ…？

よいな…？

氷、^{こおり}隠^{かくれ}

数を数えよ

七つ、ゆつくりな…

はあゝい

はーい

●それぞれ左右から同じ尺で聞こえる。

ななゝゝゝつ、じゆる、じゆる、じゆる、じゆるる

ななゝゝゝつ、じゆる、じゆる、じゆる、じゆるる

むううゝゝゝつ、れろつ、ちゅ…ちゅぱつ

むううゝゝゝつ、れろつ、ちゅ…ちゅぱつ

い、つうつゝゝゝつ、ちゅ…れろ、れろれろ…ちゅ

い、つうつゝゝゝつ、ちゅ…れろ、れろれろ…ちゅ

よおおおゝゝゝつ、ちゅぱつ、ちゅぷ、ちゅぷちゅぷ

よおおおゝゝゝつ、ちゅぱつ、ちゅぷ、ちゅぷちゅぷ

みいいゝゝゝつ、れろつ、れろれろれろれろつ

みいいゝゝゝつ、れろつ、れろれろれろれろつ

ふたああゝゝゝつ、じゅぷじゅぷじゅぷじゅぷじゅぷ

ふたああゝゝゝつ、じゅぷじゅぷじゅぷじゅぷじゅぷ

ひとおゝゝゝゝつ、じゅる、じゅるるるうううゝゝゝゝつ！

ひとおゝゝゝゝつ、じゅる、じゅるるるうううゝゝゝゝつ！

…よし、出せつ

●色しきの中に射精する主人公。

んっ…、んはあああつ…

良いぞ…

子種が満ちてくる…っ

久しぶりの感覚

悪く無いぞ…

んっ…、これ

急に抜くでない

せっかくの種が

外に溢こぼれてしまうではないか

●体力の限界を迎え、また倒れ込む主人公。

ふん…仕方ない客人じゃのう

この調子では

長くは保たぬな

隠かくれ…後は頼むぞ

あ、はい…

お任せください

これで…儂らにも

種は注がれたか

…

いつまで続くのじやろうな

この地獄は